**「プラクリティム・パラマーム」**

2020年1月19日

逗子例会

ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

スワーミー・メーダサーナンダによる講話

於・逗子本部別館

今日の講話は、スワーミー・アベダーナンダジのホーリー・マザーへの賛歌「プラクリティム・パラマーム」についてです。この賛歌では、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの神聖な人格の本性が、「彼女」に捧げる礼拝と祈りの言葉を通して説明され描写されています。

シュリー・ラーマクリシュナもホーリー・マザーの本質について多くのすぐれたコメントをされました。ある時、ドッキネッショルの師の部屋で師の足をマッサージしながら、彼女は師に自分をどう見ているのかを尋ねました。もちろんお二人は結婚していましたが、一般的な結婚の形態ではなかったので、夫に対してそのような質問をしたのです。シュリー・ラーマクリシュナはすぐにお答えになりました「この寺の母（カーリー）と、この体を産んでくれた母、その方たちと同じ母が今、私の足をマッサージしています」。お二人の関係については、このことが最も重要な点なので、心にとどめておくべきです。

別の機会にシュリー・ラーマクリシュナは、ホーリー・マザーは「彼」の力であり、「彼」のシャクティ（宇宙の根本エネルギー）である、「彼」はそれらを用いて信者に対して霊性を分け与えているのだ、とおっしゃいました。

別の機会に「彼」は、ホーリー・マザーは知識の与え手であるサラスワティーであり、人びとに知識を与えるために生まれてきたのだ、とおっしゃいました。マザー・サラスワティーは、この世の知識（アパラーヴィッディヤー）と霊的知識（パラー・ヴィッディヤ）という２種類の知識を与えますが、ホーリー・マザーはその両方のあらわれでした。

**ホーリー・マザーの本性を明らかにする**

外から見るとホーリー・マザーは、平凡な田舎の村の女性に過ぎないように見えます。それとは対照的にシュリー・ラーマクリシュナは、サマーディに入ったときには特に光り輝きましたし、「彼」の霊的なオーラはうっとりするものでした。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダも素晴らしい存在感とカリスマ性を持っていました。シュリー・サーラダー・デーヴィーはこのようなことを全然あらわしませんでした。しかしながら、「彼女」に長年仕えたスワーミー・アルパーナンダジが他の僧侶からホーリー・マザーの特別な資質について尋ねられると、「彼女」にはエゴというものがまったくありません、と答えました。一般的な人は、ちっぽけでわずかな才能を持つだけでそれを見せたがるのですが、それはエゴです。ホーリー・マザーはご自身の深遠な霊的力をとても上手に隠すことも出来ました。私たちは、シュリー・ラーマクリシュナが、ホーリー・マザーはマザー・サラスワティーであると言及したと聞いても、その意味を思い描いたり理解することすらできません。本を読み瞑想をしても、この言明の意義を十分に認識することはできません。ホーリー・マザーは全能ですが、「彼女」はその力を隠しました。普通の人はそのような力を隠すことはできないのですが、「彼女」の特別な力を使って隠したのです。

最初にシュリー・ラーマクリシュナが、サーラダー・デーヴィーは特別だ、と告げたのは、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージー）に対してだったのですが、彼はこのことを兄弟弟子に説明しました。ある時、アドブターナンダジ（ラトゥ・マハーラージ）がマザー・カーリーを瞑想しているとき、ホーリー・マザーはカーリー寺院のナハバトで夕食の準備をし、チャパティを一生懸命作っていました。シュリー・ラーマクリシュナがアドブターナンダジに近づいておっしゃいました「ラトゥ！ お前が瞑想している聖なる母が、ナハバトで一生懸命働いていらっしゃる。瞑想をやめて彼女を手伝ってはどうかね？」。シュリー・ラーマクリシュナはこの心を揺さぶる声明で、聖なる母がサーラダー・デーヴィーとして形をもってあらわれたということをここに示されたのです。

シュリー・ラーマクリシュナの出家弟子の間では、ホーリー・マザーに対する理解の度合いは確かに深いものでしたが、さらにスワーミージー、ブラフマーナンダジ、プレマーナンダジやその他わずかな霊的猛者が「彼女」に近づくときはいつでも、「彼女」が「母なる神」であることをはっきりと見ました。

そのため彼らは「彼女」と自由に会話をすることができず、しばしば霊的感情に圧倒されました。彼らにとっては、まるでマザー・カーリー自身が彼らの前に座っていたかのようだったのですから。

別の際にサーラダー・デーヴィーは、「彼女」とシュリー・ラーマクリシュナは、同じコインの二つの面であり、ブラフマンとシャクティのように、一つの存在以外のなにものでもない、とおっしゃいました。インドでは、私たちはシュリー・サーラダー・デーヴィーを「母なる神」と呼んでいますが、シュリー・ラーマクリシュナが同じコインのもう片方の面ならば、信者はシュリー・ラーマクリシュナを「父なる神」と呼ぶことはできませんか？ 確かに私たちはシュリー・サーラダー・デーヴィーに対しては「母なる神」、シュリー・ラーマクリシュナに対しては「父なる神」と、どちらも使うことができます。 日本語でDivine Motherを「母なる神」、Divine Fatherを「父なる神」と言います。（ここで当日の通訳者であるレオナルドさんが、カトリックでは神を母として礼拝しないことと、「父なる神」という言葉は日本のカトリック教徒が「神」、「ファーザー」を指すのに使用するのと同じ用語であることを指摘された）

**根本エネルギー**

ホーリー・マザーに捧げる賛歌は他にもありますが、「プラクリティム・パラマーム」は今も最も人気があります。スワーミー・アベダーナンダジがまだ若い僧侶だった頃、ヴェーダーンタを伝道してほしいというスワーミージーの要請によって西洋に行く前のことです。アベダーナンダジは現在のベルル・マトの近く、ガンジス川西岸のニランバル・バブーのガーデンハウスに滞在していたホーリー・マザーを訪問しました。 アベダーナンダジはホーリー・マザーに近づき「彼女」に捧げる賛歌を作ったことを伝えました。謙虚さの権化であるマザーはこのことに大変驚きました。なぜなら賛歌というのは通常、神や女神に捧げられるものだからです。だから「彼女」は謙遜して「私についてでしょうか？」と当惑されました。アベダーナンダジは「彼女」にその賛歌を詠唱していいかどうか尋ねました。ホーリー・マザーはアベダーナンダジの歌詞を聞きながらサマーディに入られました。

アベダーナンダジが賛歌を詠唱し、「ラーマクリシュナガタプラナーム」という歌詞に差し掛かった時、スワーミーは彼の前に座っているのはホーリー・マザーではなく、シュリー・ラーマクリシュナであることをはっきりと見ました。これを検証することはできませんが、この出来事は、僧団の代々の兄弟たちによって伝え続けられています。

**恐れを知らず、慈悲深く、恩寵の与え手**

賛歌で描かれているホーリー・マザーの特別な特徴のいくつかを説明しましょう。初めに「プラクリティム・パラマーム」の意味は、宇宙を創造、維持、破壊する根本エネルギーです。スワーミー・サーラダーナンダジ（シャラト・マハーラージ）もベンガル語の歌を歌いました。その歌は、ホーリー・マザーのお遊びの中で「彼女」は創造し、時には破壊する、という考えを伝える歌です。「彼女」は行為の結果の与え手でもありますが、さらに悪いカルマの結果として生じる苦しみを大幅に減らすことができます。 アベダーナンダジの賛歌の一行目では、ホーリー・マザーを「アバヤーム（恐れなし）」であると描いています。この恐れのなさには、二つの面があります。一つは、「彼女」は完璧に恐れから自由であることです。そしてもう一つは、「彼女」は恐れに苦しむ人々の恐れを取り除くこともできることです。

これに関して、ここでホーリー・マザーの生涯から面白い出来事を簡単に述べます。マザーがカルカッタに滞在中のことです。ホーリー・マザーは、医者がもうすぐやってきて「彼女」に注射を打つでしょう、と言われて大変怖がりました。後ほど医者が彼女のウドボーダンの家に到着したとき、人々はあちこち「彼女」を捜しましたが、どこにも見つかりませんでした。結局医者が帰った後に、彼らは彼女がベッドの下に隠れているのを見つけました。サーラダーナンダジは面白半分で言いました、彼女は「アバヤ」つまり「恐れはない（fearless）」です。それに「彼女」は「恐れのなさ（fearlessness）」の権化なのだから、もし「彼女」が恐れるのなら、どうしようもないと。

賛歌では次に「彼女」を「アバヤーム ヴァラダーム」であると称賛しています。マザー・カーリーの像には四本の腕がありますが、そのうちの一本の右腕は上にあげて手のひらを正面に向けています。これはアバヤーム、つまり、恐れないこと、を表現しています。もう一本の右腕は下側にあるのですが、手のひらは上に向いています。これはヴァラダーム、つまり、信者の祈りを満たす恩恵の与え手、を表現しています。「彼女」は世俗的な祈りと霊的な祈りの両方を満たすお方です。もし私たちが世俗的なものを求めれば、もちろん「彼女」はそれを与えることができますが、最終的にそのような欲望は、私たちに困難をもたらすでしょう。しかしもし私たちが、ヴィヴェーカ（識別）、ヴァイラーギヤ（放棄）、バクティ（神への愛）を求めるのであれば、「彼女」は私たちの大きな利益のために、それらを授けることもできます。次の「ナラルーパダラーム」とは、「彼女」が人間の形であらわれたことを説明しています。さらに「ジャナターパハラーム」は、「彼女」が「彼女」の信者の心の苦しみを取り除くと言っています。

その後の節「クリパーム クル マハーデヴィ」では、信者に恩寵を授ける慈悲深い母を称賛しています。「彼女」は信者の避難所であり、私たちが困っているときはいつでも「彼女」に避難することができます。あるとき「彼女」はある信者に、たとえ誰も助けてくれなくても、どこにも助けが見つからなくても、いつでも避難できるように「彼女」はいつもそばにいる、そのことを覚えておくように、と保証されました。このことは、人生の試練と苦難に直面するすべての信者に多大な精神の安定と勇気を与えます。これらは単なる言葉ではありません、だからもし私たちが心の底からホーリー・マザーに祈るならば、「彼女」は私たちを助けてくださるでしょう。私を含め多くの人は、生涯を通じて何度かそのような経験をしたことがあります。そしてこれらの経験は、活発な想像力が生み出したものではありません、それらは本当に起こったのです。

マザーは恩寵を授けてくださるのですが、そのことについて私たちのほうに問題が二つあります。

まず、そのようなことを聞いても信じないことです。私たちはそれを信じません。また、もしたとえ信じたとしても、マザーの恩寵でこれまでに助けられたことがあっても、それを忘れて、恩知らずになります。一つの良い解決策は、私たちが「彼女」の恩寵を受けたときに、そのことを思い出す手助けとして、それを書き留めておくことです。そうすれば、それらの場面を思い出して、信仰を深めることができます。そうしなければ、「彼女」の恩寵への私たちの信仰は浅いままです。そうすると、自分は助けられていないと思い、また「彼女」が本当に救済に来てくださった、ということを忘れるかもしれません。

**宇宙全体の母**

賛歌はシュリー・サーラダー・デーヴィーを、宇宙の母を意味する「ジャナニム ジャガタム」とも呼びます。これは、「彼女」が全ての母であること、鳥、動物などすべての存在の母であることを意味します。

そして「彼女」のこの事実を物語る数多くの出来事があります。彼女はインド人の母であるだけでなく、外国人の母でもあります。マザーが人間の形で生きておられた頃、インドはイギリスに支配されていました。そして多くのインド人は、イギリスの統治によって搾取され服従させられているという明らかな理由から、イギリス人を否定的に見ていました。しかしマザーはイギリス人も彼女の子供だとおっしゃいましたが、それは一般的な人々にとっては非常に珍しい態度でした。インドにはカースト制度もまだありました。上位カーストの人々は、下位カーストの人々と関わったり、付き合ったり、触れることすらしませんでした。アウトカーストの人や、イスラム教徒など他の宗教の人々に対しては、なおさらのことでした。マザーはそのような人々と高いカーストの信者に対し同等にお世話をされました。ある時、マザーはおっしゃいました、イスラム教徒の労働者でプロの泥棒であるアムザドは、「彼女」の息子シャラト（シュリー・ラーマクリシュナの出家直弟子でラーマクリシュナ僧団の総団長であったスワーミー・サーラダーナンダジ）と同じように「彼女」の息子であると。

「彼女」はギャーナ（神の知識）、ヴィッギャーナ（絶対的な自己の知識）、そしてモクシャ（解脱）の与え手でした。クリシュナラル・マハーラージ（スワーミー・ディラナンダ）という僧侶は、ある北カルカッタの若者に、ホーリー・マザーからイニシエーションを受けるよう説得していました。スワーミーが何度少年にイニシエーションを受けるように勧めても、少年は気が進みませんでした。この少年は、シュリー・ラーマクリシュナの出家直弟子で霊的に非常に高いスワーミー・トゥリヤーナンダジ（ハリ・マハーラージ）を大変尊敬していたので、もしトゥリヤーナンダジが同じ助言をされるなら、自分はそれに従うと言いました。トゥリヤーナンダジは同じ地区のバララーム・ボシュの邸宅に滞在していたので、二人はこのことについての助言をもらうために、そこに向かいました。クリシュナラルが少年にホーリー・マザーからイニシエーションを受けるよう助言していると聞くと、トゥリヤーナンダジは非常に興奮して少年に、クリシュナラルはまさに君の最良の友ではないか、と言いました。彼は少年にサーラダー・デーヴィーはすべての人に解脱を与えることのできる正真正銘の母なる神である、と言いました。 「人は、幾度もの人生において厳しい霊的実践をした後にやっと解脱を得られる。しかし現在は、ホーリー・マザーが解脱を得ることをとても簡単にされた。それなのになぜ、何千もの人々が解脱を求めて彼女のところに来ないのだろうか？」トゥリヤーナンダジのこれらの燃えるような言葉を聞いて少年はすぐに確信し、ホーリー・マザーのところへ行ってイニシエーションを授けてくださるようにお願いしました。

**純粋さの化身**

私たちは女神の像が多くの宝石や黄金の装飾品で飾られているのをよく目にしますが、ホーリー・マザーの場合、彼女の最も称賛されるべき装飾品は彼女の謙虚さでした。「プラクリティム・パラマーム」はホーリー・マザーを純粋さの化身としてほめたたえています。私たちはしばしば純粋という言葉を耳にしますが、自分が純粋になるまでは、純粋についてあまり理解できません。たとえできたとしても、マザーの純粋さがどれだけのものであるかを知覚することは困難でしょう。これについて例を挙げます。スワーミージーとスワーミー・トゥリヤーナンダジは、ある時ベルルからカルカッタへとガンジス川の船で向かっていたのですが、雨季だったので川の水はかなり濁っていました。そのときスワーミージーは熱があったのに、時々ガンジス川の水を飲みました。トゥリヤーナンダジはこれに驚いて、水はきれいではないし、それに熱もあるではないですか、と指摘しました。スワーミージーは答えました、「ハリ兄弟、私は自分の中に幾分かの不純さが残っているのではないかと恐れています。だから私はホーリー・マザーをお尋ねすることが怖いのです」と。今、私たちは皆、スワーミージーの霊性がどれほど高かったかを知っていますが、彼ですらホーリー・マザーにお会いする前に、自身の純粋さについて懸念があったということが、分かります。これはホーリー・マザーの純粋さがどれほどものであったかを私たちに示しています。

ホーリー・マザーは常にシュリー・ラーマクリシュナを想っておられたので、ラーマクリシュナ意識のあらわれの最良の手本でもあります。「クシャマ・ルピニ」は、マザーが許しと忍耐の女神であったことを意味します。「彼女」は自分のもとに避難する人々の過ちや罪を許しました。さらに彼らの汚れを取り除き、彼らを清らかにしました。彼女は悪い性質を良い性質に変える力も持っていました。例えば、彼女はある人の家族に対する強い執着を、神への強い愛着に変えました。そうすることで否定的な性質を取り除くだけでなく、肯定的な性質に変えたのです。シュリー・ラーマクリシュナも同じ特性を持っておられました。

ホーリー・マザーはご自身が母なる神であるにもかかわらず、彼女の従者や「彼女」とよく会う人々に対して、「彼女」を母なる神や宇宙の母であると考えるのではなく、むしろ自分の大好きなお母さんだと考えるようにとお勧めになりました。そのことは、彼らの関係を自然でとても深いものにしました。私たちは賛歌の最後の節で表現されている心情を繰り返すことで、「彼女」に対する態度をまねることもできるし、祈ることもできます。「お母さん、あなたの子供である私たちにずっと愛情を注いでください。私たちの永らく乾いていた心に、あなたの愛を一滴でいいので垂らしてください、私たちの心を静かに平安にしてください！」